



芙蓉 (ふよう)

うえまつ けんいち
(植松 健一 議員)

令和3年度市長市政方針について

問 これから高齢化社会を迎えるに当たって、高齢者が自分の意思で率先して移動し、好きなところへ行けるような公共交通の早急な整備が求められるが、今後の見通しは。

部長 今後の公共交通の整備として、宮タクの運営方法の改善を予定している。便の増便やエリア間の接続について改善していく。また実証実験として北部エリア及び芝川エリアから乗り換えなしで中心市街地まで行けるようにすること、全てのエリアで会員の同乗者利用を認めるようにすることなどを行なう。

問 市の財政運営はコロナ禍でも健全であるが、経常的経費が増えており、財政の弾力性が失われつつあると危惧するが、改善のためどのように取り組んでいくのか。

部長 例年、予算要求における最重点事項の一つ

として、人件費を除く経常的経費に係る要求額はゼロベースから積み上げること等、全職員に周知しコスト意識を強く持ち、いたずらに予算が膨らまないよう一丸となって取り組んでいる。今後も徹底した事務事業の見直しや事業の選択と集中を図ることで、経常的経費の増加を最小限に抑え、限られた財源を有効的かつ効果的に活用することが重要であると考えている。

問 将来の富士宮市像として「富士山に感謝するまち」、そんなフレーズが似合う富士宮市にしていきたいと考えるが、市長の考えは。

市長 日本人の「こころ」とも言える富士山を受け継ぎ、また次の世代につなげ、さらに市民の皆様が富士山のあるまちに住んでいることに誇りを感じていただけるようなまちづくりを進めていきたいと改めて強く思う。まちづくりを進める中で、富士山に感謝するということは大変大事な考え方だと思う。提案の富士山に感謝する、そんな機運醸成につなげていきたい。

令和 (れいわ)

ふかさわ りゅうすけ
(深澤 竜介 議員)

ウイズコロナの時代感覚

問 人々の価値観が変わる中で、市政の方針は何か変わったのか。計画変更したものや方向性を変えたものがあるのか。

部長 市政運営の方針や総合計画をはじめとする各種計画については、これまでの方向性が大きく変わるものではなく、むしろ新型コロナウイルス感染症を経験することで新たな視点や技術を取り入れ、加えることで従来の方針や各種施策に厚みが増すものと考えている。

デジタル推進

問 デジタル推進について、民間人の採用を考えているのか。

部長 デジタル化を専任する職員は、行政実務及び本市の事務事業に精通していることが最も重要となるので、現時点では内部職員を配置する予定である。

これからの時代の中小企業支援策

問 電気自動車へのシフト化や裾野市で着工したウーブン・シティへの対応は何かあるのか。

部長 自動車産業等の再編が進むことが予想されていることから、静岡県工業技術支援センター等の支援組織との連携を図り、優れた市域資源や産業基盤を活用し、新たな技術や素材と融合した次世代産業の創出を目指していきたいと考えている。

(仮称) 郷土史博物館構想

問 コロナにより、「箱物をつくって、そこに人を集める」ものから、「屋外の現場やネット上での体験や知見を得る」ことを重視することへ価値観が変わった。博物館基本構想はそうした価値観の変化に対応するものなのか。

部長 市民が地域の文化資源を学ぶため、学習機会の提供、調査研究、保管・保存などに取り組む拠点とすることを基本方針としており、この考え方はアフターコロナにあっても変わらない。